Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

11月号—No.271
2017.10.25
（毎月1回25日発行）

【パンプキン】ハロウィンで使われるパンプキンの外皮のようなオレンジ色。

パンプキンはカボチャの英名。カボチャには日本で一般的に食べられている果皮が緑のものと、ハロウィンで飾りに使われる果皮がオレンジのものなどがあるが、北米でパンプキンと呼ばれているのは後者のみ。日本でもハロウィンが定着し、豊かな実りを象徴するパンプキン色が季節を告げる色としてすっかりお馴染みになった。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
平成29年度「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」スタート
財団からのお知らせ……4
ステージラボ横浜セッション参加者募集／雑誌「地域創造」第42号のご案内／平成30・31年度「公立美術館における出前型（オーダーメイド型）研修」開催地募集
今月の情報……6
地域通信
今月のレポート……12
横浜市　ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017「不思議の森の大夜会」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●「公共ホール音楽活性化事業」

平成29年度の「おんかつ」がスタート

平成29年度
公共ホール音楽活性化事業

写真左上：坂口昌優さんによるアウトリーチ（石川県野々市市・ほのみこども園）

右上：最終日（9月9日）に野々市市文化会館フォルテで行われた「想いをつなげるコンサート」は、“みんなの音楽会”と題してトークなどを交えて開催（ピアノは鶴見彩さん）

左下：玖珠町議会議場で行われた塚越慎子さんのアウトリーチ

右下：くすまちメルサンホールで行われたコンサート（9月30日）では小中学生のダンスチームと共演（ピアノは志村和音さん）

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　三浦・工藤
Tel. 03-5573-4078
onkatsu@jafra.or.jp

地域創造では「公共ホール等活性化支援事業」として、音楽・ダンス・演劇・邦楽・美術の各ジャンルで地域と連携した事業を展開しています。その中でも代表的な取り組みが、平成10年度にスタートした公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）です。

この事業は地域創造がオーディションで選抜したアーティスト（28・29年度登録アーティスト7名）を地域に派遣し、市町村ホールとアーティストがお互いにアイデアを出しあい、アクティビティ（地域交流プログラム）とコンサートを企画・実施するものです。今年度は、9月から来年3月まで、全国15地域での開催を予定しています。今号のレターでは、その皮切りとなった石川県野々市市と大分県玖珠町の取り組みをご紹介します。

●地元在住の演奏家と心温まる交流～野々市市

金沢市のベッドタウンである野々市市は人口約5万2,000人。1995年から20年以上にわたって本場のジャズミュージシャンがワークショップとコンサートを行う「BIG APPLE in NONOICHI」を継続し、ジャズの街として知られています。おんかつに参加したのは、その会場でもあり、ジャズ愛好家で建築史学者の竺覚暁さんが館長を務める野々市市文化会館フォルテ（804席の大ホール、300席の可動式小ホール等）です。1988年に開館し、ジャズや子どもたちを対象にしたコンサートなどの自主事業に力を入れ、来年30周年を迎えます。

担当の日裏由佳さんは、「クラシック音楽を地元に根づかせる入口にしたいと思い、おんかつに応募しました。金沢に行かなくてもクラシック音楽が聴けることを知っていただき、地元に愛着と誇りをもっていただければという思いもありました」と話します。

9月7日から9日まで野々市でおんかつを行ったのは、地元出身で現在も野々市市在住のヴァイオリニスト・坂口昌優（まゆ）さんです。期間中は自宅から会場に通い、顔馴染みの粟貴章市長に表敬訪問したところ、アクティビティへの市長視察が実現。トークでも出身幼稚園や小学校の話題で和むなど、地元出身アーティストならではのおんかつになりました。

1日目は、高齢者施設が併設されたほのみこ

ども園と石川県立明和特別支援学校中学部、2日目は北陸学院扇が丘幼稚園と市役所に併設された野々市市情報交流館カメリアでアウトリーチが行われました。坂口さんは、「入院のお見舞いに行って演奏したときに周囲の患者さんにとても喜んでもらい、音楽は心を元気にする力があると感じました。その音楽を届ける活動を地元で行うことに特別な思いがあります」と感慨深げでした。

「音楽を聴いて自由に想像することを楽しんでもらいたい」というアクティビティでは、ベートーヴェンの『ヴァイオリンソナタ第2番』第1楽章のメロディーからイメージしたという自作の物語を朗読してもらいながら演奏。本番のコンサートでも地元劇団員の朗読と共演し、また、アクティビティの様子が映し出されたスクリーンをバックにしっとりとした演奏を届けるなど、故郷への思いを込めた感動的なおんかつとなりました。

●マリンバの魅力でみんながひとつに ～玖珠町

玖珠町は大分県中西部にある九州山地に囲まれた人口約1万6,000人の町です。日本のアンデルセンとして知られる児童文学者・久留島武彦の出身地で、今年4月にはその記念館がオープンしました。おんかつに参加したくすまちメルサンホールは2001年に開館した町民ホール(716席)、中央公民館、保健センターの機能を併せ持つ複合施設です。

担当の岳尾かおりさんは、「マリンバの奏者の塚越慎子(のりこ)さんのプレゼンテーションを聴き、幅広い人たちに楽しんでもらえるのではないかと思い、お願いしました。これをきっかけにメルサンホールの活動を理解していただき、応援してもらえるようになれば」との思いで、町議会の議場、町に2カ所ある自治会館、杉の子こども園でのアウトリーチを企画しました。

議場では、町議会議長の提案により、中学1年生約50人が議員席で、町長・副町長・議員および教育委員会職員や役場幹部が傍聴席で鑑賞するという町総出のアクティビティが実現しました。中学生の議場体験と関係者へのインリーチを兼ねた一石二鳥の企画でしたが、その場にいた全員が塚越さんの音楽と人柄に魅了され、本番のコンサートにも多くの人が駆けつける大成功となりました。また、自治会館では商工会や自治会の方を対象に、リズムの裏打ちを体験するワークショップなどが行われましたが、身近で聴くマリンバの音の虜になった人たちがここでもチケットを買い求めていました。

杉の子こども園では、小・中学生の女子で結成された杉の子ダンスチームと共演しました。本番のコンサートではマリンバの生演奏に合わせてダンスを披露するなど、プロの演奏家との共演は子どもたちにとって大きな刺激となったようです。

初めてのマリンバ・コンサートでもあり、集客が課題になっていましたが、町じゅうに塚越さんのポスターが貼られ、関係職員全員が塚越さんのCDを購入するなど万全のバックアップにより、約500人もの人々が本番のコンサートを堪能。岳尾さんは、アクティビティ参加者や多くの関係者が来場しているのを目にして感無量の様子で、「これからも続けていきたい」と確かな手応えに目を輝かせていました。

平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体(主会場／アーティスト／日程)

- 石川県野々市市(野々市市文化会館フォルテ／坂口昌優／9月7日～9日)
- 京都府舞鶴市(舞鶴市総合文化会館／塚越慎子／9月22日～24日)
- 大分県玖珠町(くすまちメルサンホール／塚越慎子／9月28日～30日)
- 大阪府豊中市(豊中市立文化芸術センター／坂口昌優／10月11日～13日)
- 佐賀県嬉野市(リバティ[嬉野市社会文化会館]／ヴィタリ・ユシュマノフ、加藤文枝／10月12日～14日)
- 長野県塩尻市(塩尻市文化会館(レザンホール)／ヴィタリ・ユシュマノフ／11月30日～12月2日)
- 愛知県高浜市(高浜市やきものの里かわら美術館ホール／ヴィタリ・ユシュマノフ、喜名雅／12月10日～12日)
- 埼玉県上里町(上里町総合文化センター(ワーフ上里)／坂口昌優／1月11日～13日)
- 熊本県菊陽町(菊陽町図書館ホール／喜名雅／2018年1月18日～20日)
- 茨城県鉾田市(鉾田市立大洋公民館／塚越慎子／1月19日～21日)
- 大阪府箕面市(グリーンホール(箕面市立市民会館)／福川伸陽／1月19日～21日)
- 福岡県太宰府市(プラム・カルコア太宰府／坂口昌優、喜名雅／1月25日～27日)
- 埼玉県秩父市(秩父宮記念市民会館／塚越慎子／3月1日～3日)
- 富山県南砺市(南砺市福野文化創造センター「ヘリオス」／坂口昌優、岩崎洵奈／3月8日～10日)
- 広島県坂町(Sunstar Hall／岩崎洵奈、喜名雅／3月15日～17日)

財団からのお知らせ

●ステージラボ横浜セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。

今年度後期セッションは、横浜みなとみらいホールを会場に開催します。概要は以下のとおりです。詳細は、同封の募集要領でご確認ください。当財団ウェブサイトから参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

皆さまのご参加をお待ちしております。

[日時] 2018年2月20日(火)～23日(金)

[会場] 横浜みなとみらいホール(横浜市西区みなとみらい2-3-6)

募集締切：11月26日(日)必着

◎ホール入門コース(定員20人程度)

[コーディネーター]

草加叔也(有限会社空間創造研究所　代表)

[対象者]

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織にあっては年数不問)の職員

[コース特色]

参加者の皆さんが働く地域の劇場・ホールが、どのような役割を担うべき施設なのかを考え、そのためにこれから何を実現していかなければならないのかをあぶりだし、そこで働く人材として果たすべき役割を見つけることができるように、これからの地域の劇場・ホールのあり方を一生懸命に考え、語っていただく4日間にしていきます。

◎自主事業(音楽)コース(定員20人程度)

[コーディネーター]

児玉真(地域創造プロデューサー)

[対象者]

自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員

[コース特色]

本コースのテーマは「音楽芸術はコミュニティとどう向きあえるのか」です。地域コミュニティとの関係を大事にしてきたいくつかのホールの方の話を聞き、音楽を体験し、音楽家にとってのコミュニティとはなにかを聞き、コミュニティの事業をホールの音楽の事業とどのように連携し共有していくと楽しいのか、ということを一緒に考えていきます。

●ステージラボ横浜セッション参加申し込み方法
当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「ステージラボ」より参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/

◎申し込み・問い合わせ
芸術環境部　梅田・高澤
Tel. 03-5573-4068・4093
Mail: kensyu@jafra.or.jp

●雑誌「地域創造」に関する問い合わせ
芸術環境部　高澤
Tel. 03-5573-4093

●雑誌「地域創造」第42号のご案内

公立文化施設等の職員を対象とした芸術環境づくりのための雑誌『地域創造』第42号を、10月25日に発行しました。今号の特集「新たな居場所～まちの文化・交流施設」では、文化を核に地域との交流や居場所づくりを目的とした新たな複合施設や拠点の取り組みをご紹介しています。ぜひご一読ください。

○特集「新たな居場所～まちの文化・交流施設」
- みんなの森　ぎふメディアコスモス(岐阜県岐阜市)
- 文京区青少年プラザ「b-lab」(東京都文京区)
- 太田市美術館・図書館(群馬県太田市)
- まちライブラリー(大阪府大阪市ほか)

○空間のエスプリ―国際的事例のビジュアルレポート
“古書の町”ヘイ・オン・ワイ(英国ウェールズ)

○体験レッスン―公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授
城崎国際アートセンターに地方創生の拠点となるAIR(アーティスト・イン・レジデンス)を学ぶ

○座談会
「ダンス事業を考える」

○SCOPE―地域の注目事例レポート
奥能登国際芸術祭(石川県珠洲市)

○海外スタディ[番外編]
地域振興の仕掛けとしてのクラウドファンディング

○イラストSCOPE―伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート
祇園祭山鉾「函谷鉾(かんこぼこ)」(京都市)

●平成30・31年度「公立美術館における出前型（オーダーメイド型）研修」開催地募集のお知らせ

地域創造では「実践的な公立美術館運営能力の向上」ならびに「公立美術館の相互交流」を図るための出前型の研修事業を行っています。

本研修事業を平成30・31年度に地域創造と一緒に行う公立美術館を募集します。

皆さまのご応募をお待ちしております。

◎研修事業の特徴

- **地域のニーズ**に沿ったカリキュラム編成
- **現地開催**による研修参加者の負担軽減
- **地元負担ゼロ**の講師の派遣
- ゼミ形式による**参加者の相互交流**の促進

募集締切：2018年1月31日（水）必着

札幌での開催例（平成29年度）

●美術館と観光がテーマ

- 1限目：「公立美術館の行政における立ち位置」
  石川善朗（地域創造　常務理事）
  美術館とは何なのかを考える。
- 2限目：「美術館と観光―美術館は誰のものか?」
  山口裕美（アートプロデューサー）
  『観光アート』（2010年、光文社）の著者である山口氏ご自身の体験などを踏まえた、外部からの目線による公立美術館への新しい提案。
- 3限目：「美術館のおもてなしの事例」
  高野英江（地域創造　美術館担当（前川崎市岡本太郎美術館職員））
  公立美術館のナイトミュージアムや自主的イベントなどによるおもてなしの実践例を紹介。
- 4限目：ディスカッション
  これまでの講義を踏まえ、参加者全員でのディスカッションを行い、各美術館の置かれている状況や、それぞれの立場について意見交換。

北海道立近代美術館で開催した研修の様子（2017年9月）

●会場は北海道立近代美術館

●札幌市内の公立美術館等の学芸員、行政担当者が参加しての半日の研修

●今後、地域における課題に沿って、研修担当者と相談をしながら具体的な内容を決定。

●2年間にわたり複数回開催予定。

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館が、②まとまって参加することを要件とします。

①地方公共団体が設置し、直営または指定管理者が管理運営する公立美術館（博物館を含む）が対象

②公立美術館がまとまって参加（次のいずれか）

- 都道府県単位の公立美術館
- 都道府県の中のまとまった地域の公立美術館
- 都道府県を越えてまとまった地域の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、行政担当者等

●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容（原則）

[開催地]申請をする公立美術館（以下、「申請美術館」）

[参加者数]双方向型の研修を実施するため、20人以内

[開催回数・開催時間等]

- 平成30年度、31年度の2年間について、内容の異なる半日の研修事業を、申請美術館の決定する日程において、複数回行います。
- 半日の研修においては、50分単位3～4コマで行います。

（例）1限：行政経験者によるゼミ
2限：学芸員等によるゼミ
3限：参加者全員による座談会

[カリキュラム]右欄の「研修項目」の中から、公立美術館の要望に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定します。

●「美術館出前型（オーダーメイド型）ゼミ」

◎研修項目案

- 行政当局から見た公立美術館
- 公立美術館から見た行政当局
- 公立美術館の組織・人を動かすためには?
- 公立美術館の評価の具体例
- 公立美術館同士の連携例
- 公立美術館と民間施設の連携例（共通入場パスポート）
- 公立美術館のショップ・レストランの具体例
- 観光と美術館
- マーケティング
- 効果的なプロモーション（広報）
- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- 知っておきたい行政の知識（予算獲得の方法など）
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

◎申請美術館としての業務

参加者への働きかけ、参加者名簿の作成、会場の設営、配布資料の印刷などの業務（なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担）。

◎申請方法

当財団ホームページの「様式箱」→「ステージラボ・アートミュージアムラボ」→「美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。

http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/

◎問い合わせ

総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・高澤

●2018年1月号情報締切
12月1日(金)

●2018年1月号掲載対象情報
2018年1月～3月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●仙台市
せんだいメディアテーク(仙台市市民文化事業団)
〒980-0821　仙台市青葉区春日町2-1
Tel. 022-713-4483　清水建人
http://www.smt.jp/

コンニチハ技術トシテノ美術
東日本大震災後の東北に関心を寄せる5名の美術家が、語源を同じくする技術や芸術への考察を通して、未知なるものや自然への恐怖心と、手探りのおかしみや人の技に宿るユーモアを表し、今の社会に切実な“生きる技法”を考える展覧会。関連イベントとして、展示作家と一緒に展覧会を観るツアーや、座談会などを開催。
[日程]11月3日～12月24日
[会場]せんだいメディアテーク

飯山由貴《海の観音さまに会いにいく》(2014年)　撮影:宮澤響

●仙台市
せんだい演劇工房10-BOX
〒984-0015　仙台市若林区卸町2-12-9
Tel. 022-782-7510　大沼恵美
http://www.gekito.jp/

まなぶ☆からだ―演劇と表現―
演劇や舞台芸術に関する幅広い“表現力”を磨く講座。演劇や舞台芸術にさまざまな角度からアプローチするため、横山拓也(劇作家／演劇ユニットiaku代表)、阿部勉(映画監督)、津村禮次郎(観世流能楽師)、刈谷円香(ネザーランド・ダンス・シアター1所属)ら、多様な分野から専門の講師を迎え、身体表現やその技法、発想力とトレーニングの仕方などを体験しながら学ぶ。
[日程]11月17日～19日、12月9日・10日、23日・24日、26日・27日
[会場]せんだい演劇工房10-BOX

●宮城県大河原町
えずこホール(仙南芸術文化センター)
〒989-1267　柴田郡大河原町字小島1-1
Tel. 0224-52-3004　玉渕博之
http://www.ezuko.com/

えずこミュージック♪アカデミーコンサート21st
住民参加型創造文化施設をコンセプトとするえずこホールを拠点に活動してきた音楽・住民創造グループ(ギター合奏、男声合唱、弦楽合奏、ゴスペル、吹奏楽)が、1年間鍛錬を重ねてきた演奏で、幅広いジャンルから色彩豊かな曲の数々を届ける。グループ単独のコンサートだけでなく、コラボレーションによるロビーコンサートにも注目。
[日程]11月26日

昨年の様子(ロビーコンサート)

[会場]えずこホール

●福島県二本松市
重陽の芸術祭実行委員会
〒969-1511　二本松市下川崎33-1
Tel. 0243-61-3100　鈴木隆
http://2017.fukushima-art.com/

重陽の芸術祭2017
最先端のアートを通して地域の文化にふれる機会を増やすとともに、国際交流を活性化させる場となることを目的に2016年に始まった芸術祭。総合ディレクターは渡邊晃一(福島大学教授／芸術による地域創造研究所所長)。能や歌舞伎で有名な『黒塚』の安達ヶ原や高村智恵子の生家を会場とした展示のほか、二本松城ではオノ・ヨーコ、ヤノベケンジによる新作が発表される。
[日程]9月9日～11月23日
[会場]福島県立霞ヶ城公園　二本松城ほか二本松市内各所

ヤノベケンジ《Ship's Cat》(2017年)

関東

●茨城県北茨城市
茨城県天心記念五浦美術館
〒319-1703　北茨城市大津町椿2083
Tel. 0293-46-5311　中田・塩田
http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/

開館20周年記念「龍を描く―天地の気」
古くから描かれてきた龍が、画家たちによってどのように表現されてきたのか、その模索の軌跡を紹介する展覧会。「龍図の展開」「龍の物語」「仏画における龍」など、龍図にまつわるコンテクストから得た5つのテーマを切り口に、計55点の作品によって構成される。南北朝時代から江戸時代までの龍図17点とともに、近現代の画家たちの作品を紹介し、多彩で魅力溢れる表現に迫る。
[日程]10月25日～11月26日
[会場]茨城県天心記念五浦美術館

●群馬県前橋市
アーツ前橋

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒371-0022　前橋市千代田町5-1-16
Tel. 027-230-1144　今井朋
http://www.artsmaebashi.jp/

アーツ前橋×前橋文学館共同企画展「ヒツクリコ　ガツクリコ　ことばの生まれる場所」

アーツ前橋と前橋文学館の共同企画展。アーツ前橋では、未来派やフルクサスなどの20世紀美術運動から河口龍夫、山川冬樹ら現代の作家までを紹介し、人間と言葉の関係や言葉の始原的な役割を考える。参加作家が書き下ろしたエッセーや詩などを収録した書籍としての図録発行という新しい試みや、地元高校生とアーティストによる街なかに展開する作品の共同制作も行う。
[日程]10月20日～2018年1月16日
[会場]アーツ前橋、前橋文学館

●群馬県高崎市

高崎市美術館
〒370-0849　高崎市八島町110-27
Tel. 027-324-6125　谷津淑恵
http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011000353/

グラフィックデザイナー　佐藤晃一展

群馬県に生まれ、高崎市で育ったグラフィックデザイナー・佐藤晃一(1944～2016)の回顧展。ポスターを中心に、原画や制作ノート、スケッチブック、今まで展示される機会の少なかったごく初期の演劇ポスターやパンフレットなど、約220点の作品と資料によってその世界を展観する。佐藤と同じく高崎高校OBで、彼の活動を支援した実業家・井上房一郎の旧邸にも作品が展示される。
[日程]9月16日～11月26日
[会場]高崎市美術館、旧井上房一郎邸(美術館併設)

●東京都台東区

東京文化会館
〒110-8716　台東区上野公園5-45
Tel. 03-3828-2111　福井千鶴
http://www.t-bunka.jp/

ミュージック・ワークショップ・フェスタ〈冬〉

先駆的な教育普及活動を行っているポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携し、独自のミュージック・エデュケーション・プログラムを実施。これまでのノウハウを活かしたフェスティバル方式により、5日間で14種類のワークショップを開催する。ジャンルを越えた音楽の楽しさを体験することで、創造性や協調性を育んでいく。
[日程]11月29日～12月3日
[会場]東京文化会館、文京シビックセンター

ワークショップ「ライオン・ビート」
©Mino Inoue

●東京都大田区

大田区立龍子記念館
〒143-0024　大田区中央4-2-1
Tel. 03-3772-0680　木村拓也
http://www.ota-bunka.or.jp/ryushi/

川端龍子没後50年特別展「龍子の生きざまを見よ！」

川端が主宰した美術団体青龍社の展覧会・青龍展で実践された大画面の「会場藝術」を実践した作品や、戦後に西国三十三所巡礼に赴いた際の小品群、横山大観や川合玉堂との深い交流から制作された『雪月花』『松竹梅』循作などを通して、その画業を一望する。龍子邸宅に設けられた持仏堂にかつて納められていた仏像も出展。
[日程]11月3日～12月3日
[会場]大田区立龍子記念館

●東京都調布市

調布市せんがわ劇場
〒182-0002　調布市仙川町1-21-5
Tel. 03-3300-0611　古崎・萩原
http://www.sengawa-gekijo.jp/

音楽劇『わが町、ちょうふ』～もののけ、の、け～

一般公募の小学2年生からシニア世代まで幅広い年代・職業の市民が、プロのスタッフ・俳優と共に半年をかけて“みんなで創る、みんなが創る”参加型演劇。調布に残る「橘の伝説」と、人の想い、物に込められた想いである「ものの(物の怪)」をモチーフにした、オリジナルの音楽劇を公演する。
[日程]11月2日～5日
[会場]調布市せんがわ劇場

●川崎市

川崎市岡本太郎美術館
〒214-0032　川崎市多摩区枡形7-1-5
Tel. 044-900-9898　大杉・木下・北川
http://taroandmediaart.com/

岡本太郎とメディアアート　山口勝弘―受け継がれるもの

アヴァンギャルドの一匹狼だった岡本太郎と、現代のメディアアートという分野を切り拓いた山口勝弘。若い頃に支援を受けた岡本へ山口が捧げたオマージュ作品を起点に、彼らの活動の先に開花した現代アーティスト10名の作品を紹介する。岡本太郎作品が展示される空間で、メディアアートの歴史的な連続性をコラボレーションという形で紹介する。
[日程]11月3日～2018年1月28日
[会場]川崎市岡本太郎美術館

高橋士郎《パイラ人―岡本太郎に捧げるバボット》(2017年)

●川崎市

川崎市市民ミュージアム
〒211-0052　川崎市中原区等々力1-2
Tel. 044-754-4500　磯山浩美
http://www.kawasaki-museum.jp/

国産アニメーション誕生100周年記念展示　にっぽんアニメーションことはじめ ～「動く漫画」のパイオニアたち～

1917年に誕生したと考えられている日本のアニメーション。当時制作に挑んだ下川凹天をはじめとする4名の先駆者たちの活動に光を当てる。戦前の漫画やアニメといった関連資料の展示、現在発見されている中では最古の国産アニメ『なまくら刀』や、8名の現代作家による「下川凹天トリビュートアニメーション」の上映を通して、100周年を顕彰する。会期中は日本の劇場用アニメ史上の傑作を選りすぐった上映会なども開催される。
[日程]9月2日～12月3日
[会場]川崎市市民ミュージアム

●神奈川県大磯町

かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会
〒231-8588　横浜市中区日本大通1(神奈川県くらし県民部 文化課内)
Tel. 045-210-3808　柳生陸
http://re-coten2017.com/

カナガワ　リ・古典プロジェクト2017　大磯

神奈川県にゆかりのある伝統文化を新しい発想で活用し、現代を生きる文化芸術として「再(Re・リ)」発信する取り組み。5回目となる今回は、大磯港にて大磯にゆかりが深い歌舞伎舞踊の上演や、日本舞踊と現代芸術のコラボ作品、地域の民俗芸能などのプログラムを開催する。
[日程]11月5日
[会場]大磯港芝生広場

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108　長岡市千秋3-1356-6
Tel. 0258-29-7715　山崎深佳
http://www.nagaoka-caf.or.jp/new_topics/18429.html

東京フィルハーモニー交響楽団長岡特別演奏会　オール・ベートーヴェン・プログラム

指揮に三ツ橋敬子を迎え、一般公募より結成した「長岡フェニックス合唱団」が実力派ソリストや東京フィルハーモニー交響楽団と共演する。演目は『合唱幻想曲』『田園』ほか。
[日程]11月12日
[会場]長岡リリックホール

●新潟県見附市

ギャラリーみつけ
〒954-0059　見附市昭和町2-4-1
Tel. 0258-84-7755　小沼智恵利
https://www.gallery-mitsuke.com/

星野暁展 始まりのかたち

見附市出身で滋賀県在住の現代陶芸作家・星野暁の県内初となる大規模個展。見附市文化ホール大ホールのホワイエ陶壁《泡の誕生から古代緑地、そして泥炭層へ》の作者であり、展覧会・個展、現地制作を国内外で多数開催している。黒陶により原始世界や自然の驚異を表現し、土と手の対話＝自然と人間の共生を主題とした陶作品を大型のインスタレーションを中心に展示する。
[日程]11月10日～12月10日
[会場]見附市・ギャラリーみつけ

●富山県富山市

富山市佐藤記念美術館
〒930-0081　富山市本丸1-33
Tel. 076-432-9031　川上貴裕
http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/muse/index.html

伝統と創造―現代九谷焼の旗手たち

日本有数の色絵磁器である九谷焼の世界で近年活躍する15名の若手・中堅作家による器や花器、オブジェなど約60点の作品を紹介する。歴史を通じて受け継がれる多彩で緻密な色絵表現と、自由で革新的な造形を通して、九谷焼の新たな可能性を探る。会期中には出品作家3名が登壇するフォーラムや、絵付実演が開かれるほか、一部の出品作家による茶碗でお茶を楽しむことができる呈茶席もある。
[日程]10月7日～12月3日
[会場]富山市佐藤記念美術館

●富山県入善町

入善町民会館コスモホール
〒939-0626　下新川郡入善町入膳3200
Tel. 0765-72-1105　澤田誠
http://www.town.nyuzen.toyama.jp/cosmo/kyoiku/bunka/kominkan/cosmohall/index.html

コスモホール地域交流音楽プロジェクト　須川展也withサックス・バンドコンサート

日本を代表するサクソフォン奏者である須川展也と、実力派アンサンブルメンバーによるコンサート。地域交流音楽プロジェクトの一環として、前日には一般公開のクリニックを開催。プロ奏者と地元吹奏楽奏者との交流を図り、共演によるプレコンサートを開催予定。地域に潜在する芸術活動の裾野を広げていく。
[日程]11月18日
[会場]入善町民会館コスモホール

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館
〒920-8509　金沢市広坂1-2-1
Tel. 076-220-2811　坂元圭
http://kanazawa-fringe.com/

カナザワ・フリンジ

カナザワ・フリンジは、アートな視点で金沢の課題や人、場所と向き合いながら2年サイクルで取り組むアーティスト・イン・レジデンス(滞在制作)プログラム。今年度は5名のディレクターが国内外からアーティストやクリエイターを招へいし、金沢の街で生み出した体験型パフォーマンスや展示物の滞在制作を行う。
[日程]11月3日～5日(2日は前夜祭)
[会場]金沢21世紀美術館、あさのがわのいえ、近江町市場、Kapo

●長野県飯田市

飯田文化協会
〒395-0051　飯田市高羽町5-5-1
Tel. 0265-23-3552　中島弘貴
https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkakaikan/inadani28.html

第31回伊那谷文化芸術祭

飯田・下伊那地域で活動しているアマチュア舞台芸術家が一堂に会し、日頃の練習成果を発表しあうとともに、団体相互の連携を図ることを目的に開催される舞台芸術の祭典。今年は約67団体、約1,600人余りが合唱や吹奏楽、ミュージカル、演劇、ダンス、バレエ等多岐にわたる公演を披露する。
[日程]11月5日、12日、19日、26日
[会場]飯田文化会館ホール、飯田人形劇場

●長野県中野市

信州なかの音楽祭実行委員会
〒383-8614　中野市三好町1-3-19(中野市文化スポーツ振興課内)
Tel. 0269-22-2111　金子・山田
http://www.nakanomf.jp/

信州なかの音楽祭2017

昨年に始まり今年で2回目を迎える音楽祭。「市民参加型(参加して楽しむ・感動を共有する)」「若手育成」「一流の音楽の鑑賞」をコンセプトに、作曲家の岩河智子による合唱ワークショップをはじめ、国立音楽大学学長の武田忠善のリサイタル、中野市音楽親善アンバサダー麻衣のコンサート、バンドコンテストなど、さまざまなプログラムが実施される。
[日程]11月3日～5日
[会場]中野市市民会館、豊田文化センター、中野陣屋・県庁記念館ほか

●静岡市

ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会
〒420-0857 静岡市葵区御幸町4-1　アーバンネット静岡ビル4F(静岡市文化振興財団内)
Tel. 054-255-4746　青木良平
https://www.streetfestival-shizuoka.com/

第18回ストリートフェスティバル・イン・シズオカ

市民がアートや音楽などの芸術作品にふれる機会を増やすため、生活の舞台であるまちなかで芸術作品やアーティストと出会い、興味をもってもらうイベント。18回目の今年はテーマをその名も「十八番(おはこ)」とし、音楽やダンス、パフォーマンス、アートなどたくさんのアーティストの十八番の作品と出会える機会となる。また出演・出展者には他のアーティストとの交流のきっかけにもなる。
[日程]11月18日、19日
[会場]静岡市青葉シンボルロード

ミュージックステージの様子

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●静岡県三島市
みしま音楽の日実行委員会
〒411-0036　三島市一番町20-5
Tel. 055-976-4455　高橋健
http://mishima-youyouhall.com/task/83/

第2回みしま音楽の日―市民参加型3世代コンサート

子ども・大人・シニアが参加する「市民参加型3世代コンサート」と銘打って、コンチェルト(第1部)、三島フィルハーモニー管弦楽団と中高生のブラスバンド、200人ほどの市民が参加する合唱との共演(第2部)による2部構成で実施される。参加、発表、鑑賞の機会を通じ、より一層の地域の音楽振興を目指す。
[日程]11月23日
[会場]三島市民文化会館

●静岡県掛川市
掛川市生涯学習振興公社
〒437-1421　掛川市大坂7373
Tel. 0537-72-1234　小田つとむ
http://k-kousya.or.jp/center/publics/index/6/

掛川長唄演奏会

歌舞伎の舞台に彩を与える日本の伝統芸能・長唄が、唄と三味線、囃子(笛・小鼓・大鼓・太鼓)のフルオーケストラとも言える形での長唄に特化した演奏会として行われる。演目も『俄獅子』『花の友』『安達原』と多彩で、歌舞伎十八番のひとつ『勧進帳』の一部も鑑賞できる。
[日程]11月23日
[会場]掛川市生涯学習センター

●名古屋市
名古屋市博物館
〒467-0806　名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1
Tel. 052-853-2655
http://www.museum.city.nagoya.jp/

特別展 北斎だるせん!

今から200年前、葛飾北斎は縦18メートル×横11メートルの大だるまを即興で描くイベントを名古屋で開催し、「だるせん(だるま先生の略)」というあだ名が生まれるほど話題をさらった。北斎と名古屋の関わりは深く、「北斎漫画」も名古屋で誕生したもの。本展では大だるまイベントを巡る熱狂を中心に、知られざる北斎と名古屋の関わりを紹介する。
[日程]11月18日～12月17日
[会場]名古屋市博物館

葛飾北斎「北斎大画即書引札」(名古屋市博物館蔵)

近畿

●三重県津市
三重県文化振興事業団
〒514-0061　津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1100　山之内健
https://www.center-mie.or.jp/bunka/

三重県文化会館プロデュース 第七劇場 日台国際共同プロジェクト Notes Exchange vol.2「1984」

第七劇場(日本)とShakespeare's Wild Sisters Group(台湾)による3年間の国際共同プロジェクト。昨年の日台両公演での文化交流を経て、2年目となる今年は、SF文学の金字塔ジョージ・オーウェルの『1984』を翻案作品を日台共同でつくり上げる。SWSGの王嘉明と第七劇場の鳴海康平が共同で演出を務め、日台の俳優たちが共演。
[日程]11月25日、26日
[会場]三重県文化会館

●三重県亀山市
亀山市地域社会振興会
〒519-0124　亀山市東御幸町63
Tel. 0595-82-7111　野間秀一
http://kameyama-bunkakaikan.com/

亀山ミュージカル『日本書紀 壬申の乱より 鳳飛伝』

平成27年に旗揚げした亀山市ミュージカル劇団。劇団員を中心に新たに公募した参加者と元宝塚歌劇団員が、地域の歴史と伝説を題材とした新作ミュージカルに挑戦する。地元の郷土芸能(葛葉太鼓保存会、灯おどり保存会)も取り入れ、より一層の市民参加と交流を目指す。
[日程]11月26日
[会場]亀山市文化会館

●滋賀県栗東市
糸賀一雄記念賞 第十六回音楽祭実行委員会
〒521-1311　近江八幡市安土町下豊浦4837-2
Tel. 0748-46-8100
http://stage.art-brut.jp/

糸賀一雄記念賞 第十六回音楽祭

障害福祉などの分野で顕著な活躍をしている個人・団体に向けて贈呈される「糸賀一雄記念賞」および「糸賀一雄記念未来賞」の受賞者をお祝いする音楽祭。障害の有無、プロ・アマチュアや、ジャンルを越えたパフォーマンスが一堂に会する。滋賀県各地で年間を通じて表現活動に取り組むワークショップグループと、国内外で活躍するミュージシャンがコラボレーションし、ステージにて発表。総合プロデューサーを音楽家の小室等が務める。
[日程]11月5日
[会場]栗東芸術文化会館さきら

●大阪市
おおさか創造千島財団
〒559-0011　大阪市住之江区北加賀屋2-11-8
Tel. 06-6681-7806　木坂葵
http://www.chishimatochi.info/found/mask/

Open Storage 2017

大阪・北加賀屋にある工場・倉庫跡を利用して大型アート作品を保管・展示する施設MASK[MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA]を一般公開するイベント。今年はメインアーティストに金氏徹平を迎え、遊園地の廃材を再構築した《White Discharge(公園)》(2017年MASK収蔵作品)をはじめ、収蔵作品を生かした大規模インスタレーションを展開。また、文化住宅を再生した千鳥文化では、金氏によるサイトスペシフィックな常設作品を初公開する。
[日程]11月3日～26日(金土日祝のみ)
[会場]MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA千島文化

●大阪市
大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
〒550-0006　大阪市西区江之子島2-1-34
Tel. 06-6441-8050　高橋・高坂
http://www.enokojima-art.jp

「20世紀の写真芸術」学生がつくる大阪新美術館・enocoのコレクション展

enocoと大阪新美術館建設準備室(大阪市)の共催で開催する展覧会。大阪市と大阪府のコレクションから厳選された100点余りの展示により、写真文化の原点とその歴史の豊かな多様性を紹介する。芸術に関わる仕事に興味のある学生が、外部研修生(インターン)として参加、展覧会づくりに必要な知識や技術を習得する機会となることも目的としている。
[日程]11月22日～12月16日
[会場]大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]

Topics

●大正時代の文化人の精神を基に創作 久万美術館「シュらん2017」

伊丹万作(映画監督)、中村草田男(俳人)、重松鶴之助(画家)ら松山出身者が大正期に手書きで制作し、絵や詩歌、小説などを発表した同人誌『朱欒(しゅらん)』。同誌を所蔵する町立久万美術館で、世界に1冊ずつしかない全9巻を基にした文化プロジェクト「座朱欒」が行われています。

第1部では、クラウドファンディングを通して、書き下ろしの翻刻版を製作しました。「クラウドファンディングは初めての試みで度胸が必要だったが、さまざまな方々の協力の下、多くの人に興味をもってもらえた」と担当学芸員の中島小巻さん。

その第2部として開催している展覧会「シュらん2017」では、愛媛にゆかりのある3名の若手作家、八木良太、西武アキラ、海野貴彦が現代版の「朱欒」を再現しています。

例えば、八木と西武はお互いの作品のコラボレーションを試み、また海野は設計図のない家を地元の棟梁と一緒につくり上げました。そこには関わる者同士の信頼関係があり、仲間同士で制作し、芸術へ青春を傾けた『朱欒』のあり方に繋がっています。「自主企画として地域の作家を取り上げることを大事にしている。第3部ではネット上の同人誌としてウェブサイトを開設する予定。メディアの発達によって連絡手段や人の集まり方が大きく変化し、会わなくても同人誌がつくれる現代と、伊丹らが活動した大正時代の、それぞれの時代性を感じていただけたら」(中島さん)

地域に残った文化の足跡を基に、現代の発達したメディアをうまく使い、企画を広げ、深めていくこのプロジェクトの今後にも注目です。

●愛媛県久万高原町
9月9日～11月23日
[会場・問い合わせ]
町立久万美術館
Tel. 0892-21-2881
http://www.kumakogen.jp/culture/muse/

海野貴彦《家》(2017年)

●神戸市

神戸アートビレッジセンター
〒652-0811　神戸市兵庫区新開地5-3-14
Tel. 078-512-5500　岡村有利子
https://www.kavc.or.jp/

若手芸術家支援企画 1floor2017「合目的的不毛論」

2008年より開催されている、30歳未満の若手芸術家を支援する公募企画「1floor(ワン・フロア)」。10回目となる今回は、大前春菜、菊池和晃、澤田華の3名が、展覧会実施におけるさまざまな要素と対話しながら一つの展示空間をつくり上げる。タイトルの「合目的的不毛論」とは、彼らに共通する制作姿勢から発想された。ギャラリートークやワークショップなどの関連企画も実施される。
[日程]11月18日～12月10日
[会場]神戸アートビレッジセンター

●兵庫県西宮市

西宮市大谷記念美術館
〒662-0952 西宮市中浜町4-38
Tel. 0798-33-0164　作花麻帆
http://otanimuseum.jp

美術館×植物!? アートで植物採集

日本画や洋画、陶芸などジャンルにこだわることなく、「植物のかたち」「季節と植物」「植物とくらす」の3つのテーマによってコレクションを紹介し、美術における植物の役割や、どのように植物が表現されているのかについて考える展覧会。館内各所で作品と植物に関するエピソードや豆知識を楽しむことができるカードを採集しながら鑑賞できる。
[日程]10月7日～11月26日
[会場]西宮市大谷記念美術館

●和歌山県田辺市

田辺市立美術館
〒646-0015　田辺市たきない町24-43
Tel. 0739-24-3770　三谷渉
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

現代の織Ⅰ　潮 隆雄
現代の織Ⅱ　久保田繁雄

視覚的表現手段としての織に着目し、織の表現を刷新する作家を特集するシリーズ。その第1弾・第2弾として、日本におけるタピスリー表現の第一人者である田辺市出身の潮隆雄(1938～)、ファイバーワークの先駆的作家・久保田繁雄(1947～)それぞれの個展を同時開催。潮隆雄展では最新作を含めた22点、久保田繁雄展では近作を含む10点を紹介する。シリーズは10回程度を目指し、今後も継続していく予定。
[日程]10月14日～11月19日
[会場]田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館

久保田繁雄《Shape of Red Ⅰ》(2009年)

中国・四国

●島根県松江市

松江・森の演劇祭実行委員会
〒690-2105　松江市八雲町平原481-1
Tel. 0852-54-2400　園山土筆
http://www.ashibue.jp/2017festival

松江・森の演劇祭2017

3年に一度行われる国際的な演劇祭。これまでの「八雲国際演劇祭」からタイトルを変え、世界5カ国の16集団が参加し、演劇やパフォーマンス、音楽、人形劇が上演される。「演劇はこころの食べもの」というコンセプトで、幅広い世代を対象に、言葉の壁を越えたアート体験を提供。オープニングでは、参加アーティストによる即興パフォーマンスやかくし芸が披露される。
[日程]11月2日～5日
[会場]森の劇場しいの実シアター、アルバホール、平原会館ほか

シリキテウラシアター(スペイン)
『きりん Giraffes』(日本初演)

●岡山市

岡山県天神山文化プラザ、岡山県ほか
〒700-0814　岡山市北区天神町8-54
Tel. 086-226-5005　福田淳子

http://www.tenplaza.info/

天神山文化プラザ特別企画展 天神山迷図

天神山文化プラザ(前県総合文化センター)は、前川國男が場所の魅力を活かし、岡山の人々に使い続けられる建築を目指して設計し、1962年に開館。世代やジャンルを超えた学びと創造の現場として、今も岡山の文化を発信し続ける。本展では展示室やホール内の催しだけでなく、建築や中庭も含めた天神山文化プラザという"場"が丸ごと会場となり、さまざまな企画展やパフォーミングアーツ、ナイトミュージアムなどが展開される。
[日程]10月28日～11月19日
[会場]岡山県天神山文化プラザ

●徳島県徳島市
徳島県とくしま文化振興課
〒770-8570　徳島市万代町1-1
Tel. 088-621-2249　大崎理英
http://tokushima-kenbunsai.jp/

ほう楽★ガールズconcert

徳島県の邦楽の裾野拡大のため、県内の若手邦楽演奏者9人によるアイドルグループ「ほう楽★ガールズ徳島」を結成。メンバーは県邦楽協会や大学邦楽部からの推薦などで選ばれた、大学生と会社員ら18～25歳の女性で構成(箏7人、三味線と笛各1人)。若い世代に邦楽への興味をもってもらうことが最大の目的で、メンバーはカラフルな着物や派手な髪型でアピールする。初舞台となる今回は、オリジナル曲や県公式マスコット「すだちくん」のテーマソングを邦楽バージョンなどで演奏する予定。
[日程]11月20日
[会場]あわぎんホール

●香川県高松市
高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711　牧野・橘
https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/

高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.06／物語る物質

2009年(vol.00)から始まった独創性、将来性のある作家を紹介する現代美術のグループ展。7回目の今回は「物語る物質」をテーマに、物質を新しい視点のもとで使用する6名の作家たちによる絵画や彫刻、インスタレーションなどを紹介。動物の骨や角、磁器や土、洗濯バサミなどの素材が、作家たちのアプローチによって大きく姿を変える。会期中には出品作家によるワークショップなども開催される。
[日程]10月22日～11月26日
[会場]高松市美術館

●香川県高松市
香川県立ミュージアム、香川県埋蔵文化財センター
〒760-0030　高松市玉藻町5-5
Tel. 087-822-0247　渋谷・鹿間・長井
http://www.pref.kagawa.jp/kmuseum/

讃岐びと、時代を動かす ―地方豪族が見た古代世界―

讃岐国府跡をはじめとした古代遺跡の発掘調査、文献資料の再検討により、今まで中央から語られてきた古代史を讃岐目線で読み解く展覧会。7世紀から11世紀の地方豪族・讃岐びとに焦点を当て、国宝7点、国指定重要文化財13点などの展示を通して、彼らが中央政府や宗教界で大きな役割を演じ、地域支配のあり方を変えていった歴史を紹介する。
[日程]10月7日～11月26日
[会場]香川県立ミュージアム

九州・沖縄

●北九州市
北九州国際音楽祭実行委員会事務局
〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1
Tel. 093-663-6567　立石聡子
http://www.kimfes.com/

2017北九州国際音楽祭

1988年、市制25周年を記念して創設された伝統の音楽祭。国内外で活躍するアーティストを招き、オーケストラや室内楽を中心に、有料コンサート、特別プログラム、教育プログラムで構成。30回目の今年は、最終日に南紫音(ヴァイオリン)、三浦一馬(バンドネオン)、清水和音(ピアノ)と「マイスター・アールト×ライジングスターオーケストラ」の総勢35名による特別なガラ・コンサートを開催。
[日程]10月7日～11月26日
[会場]北九州市立響ホール、アルモニーサンク北九州ソレイユホールほか

●長崎県五島市
長崎県文化振興課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
Tel. 095-895-2764　森樹
http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/living/event_detail.php?content_id=4967

五島ウインドオーケストラ演奏会

長崎県と東京藝術大学による「青少年音楽セミナーin五島」から誕生した吹奏楽団の演奏会。中学生や高校生、社会人、東京藝術大学の講師陣によって構成され、豊かな自然に囲まれた離島で育まれた音楽を響かせる。「音楽の島」という新しいイメージの定着を目指し、地域の活性化に取り組んでいる。
[日程]11月12日
[会場]福江文化会館

●長崎県長崎市
ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団長崎公演実行委員会
〒852-8104 長崎市茂里町2-38
Tel. 095-842-3782　木下雅人
http://rco-nagasaki.jp/

ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団長崎公演

400年以上の歴史をもつ日蘭交流のシンボル的架け橋・出島表門橋の完成を記念し、世界に名だたるロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団のコンサートを開催。県内外の団体等による実行委員会や長崎日蘭協会が中心となって、長崎の芸術文化の発展を目指し、日蘭交流の歴史を国内外へ発信する。
[日程]11月23日
[会場]長崎ブリックホール

●宮崎県都城市
都城市立美術館
〒885-0073 都城市姫城町7-18
Tel. 0986-25-1447　原田正俊
http://mcma.art.coocan.jp/2017/

Message2017 南九州の現代作家たち

都城市から南九州に視点を広げて地元作家を紹介することを通して、現代の最先端の表現をとらえようとする展覧会。1997年、2007年に続いて3回目となる今回は、その後の美術の動向と4町合併を踏まえ、美術館近辺の公園や工場跡地、田んぼなどを会場にした展示や、アーティスト・イン・レジデンスにより、地域との連携を図る。
[日程]10月21日～12月3日
[会場]都城市立美術館ほか

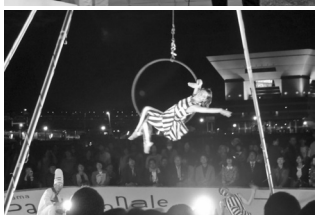
クリスマス・新春企画 情報求む！

12月号(11月25日発行予定)では恒例の「クリスマス・新春企画特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。
Tel. 03-5573-4066
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り：11月初旬

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

横浜市

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017「不思議の森の大夜会」



上：アーティスト密林東京によるシンボルツリー／中：澤村祐司（右）とMIWA KAKUTAのパフォーマンス／下：エアリアル（空中パフォーマンス）

●ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017
［会期］2017年5月27日～2018年1月下旬
※発表「不思議の森の大夜会」は10月7日～9日
［会場］象の鼻テラス、象の鼻パーク、横浜ラポール、横浜市内各所
［主催］横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、特定非営利活動法人スローレーベル
［共催］横浜市

＊2010年に右脚に悪性線維性組織球種が見つかり、右下肢機能全廃という障がいを抱える。11年、象の鼻テラスで展開する福祉施設と連携したものづくり「横浜ランデヴープロジェクト」のディレクターに就任。手づくりの雑貨ブランド「スローレーベル」設立。14年に横浜市とともに「ヨコハマ・パラトリエンナーレ」を開始。ワークショップなどで多様な人との協働を学ぶ「スローアカデミー」、障がいのあるパフォーマーに表現の機会を提供し、支援者（アクセスコーディネーター、アカンパニスト）を育成するためのプラットフォーム「スロームーブメント」を立ち上げ。16年のリオ・パラリンピックでは大会旗継式のステージアドバイザーも務めた。

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017「不思議の森の大夜会」が横浜港に面した象の鼻パークと象の鼻テラスを会場に10月7日から3日間にわたって開催された。2014年にスタートしたパラトリは、多彩なアーティストと、障がい者、健常者との協働により新たな芸術表現に取り組む国際芸術祭。5月からいくつもの協働プロジェクトに取り組み、この大夜会で成果を披露した。

全容はとても紹介しきれないが、テラスとパークの各所には障がい者の突出した能力とアーティストがコラボレーションした作品が展示され、野外の円形舞台ではプロのパフォーマーとさまざまなハンディのある人たちがボーダレスでファンタジックな現代サーカスを披露し、露店では福祉施設でつくられたオリジナル雑貨やフードが販売されていた。

そこで展開されている「協働のカタチ」は本当に多様だった。ライゾマティクスリサーチとファッションデザイナーの森永邦彦は盲目の檜山晃とパートナーを組み、見えない人が世界をどのように知覚しているかを体感できるセンサー付ウェアを開発。全盲の箏曲家の澤村祐司はジュエリーデザイナーと一緒に楽器のような装身具を製作。また、会場全体を覆ったインスタレーションの白い網は国内外の8,000人が参加して編み上げ、あらゆる人に表現を解放する試みとしてペンキ缶を倒すという片山工房の技法が紹介され、公募によるボーダレスな市民59人はうさぎの仮装をしてダンサブルな案内役を務め、詩人の三角みづ紀が目の見えない人のための音声ガイドの言葉をつくった等々。

この壮大なパラトリを立ち上げ、総合ディレクターとして牽引しているのが、NPO法人スローレーベル代表で自らも障がい者である栗栖良依だ(*)。「2014年はアクセシビリティの壁があり思うように障がいのある人に参加してもらえなかった。この間、パフォーマーや支援者を育成し、難易度の高い空中パフォーマンスにも挑戦できるようになった。これから新しい芸術表現をつくっていけると感じている。プロの舞台に普通に出演できるようになるには、まだメンタルが追いついていないといった課題もある。今は、2020年のオリンピック・パラリンピックの式典の規模を想定しながら、どういう経験が必要で、どうすればオールジャパンの体制がつくれるかを考えながら取り組んでいる」と話す。

こうした栗栖に対し、関わってきたアーティストや福祉関係者はどのような思いでいるのだろう。

金井ケイスケ（サーカス指導）：「障がいのある人が他の障がいのある人をサポートするチームワークが生まれてきた。ヨーロッパにあるサーカス学校では、プロもアマチュアも、大人も子供も一緒になってステージをつくっている。そもそもサーカスは家族でやっていたものであり、いろいろな人に居場所があるのがサーカス文化。テクニックの凄さではなく、みんながつくっている一体感を共有するような表現世界をつくりたい」

佐藤央一（横浜市健康福祉局障害福祉課担当係長）：「パラトリは文化観光局と健康福祉局が連携して取り組んでいる。健康福祉局としては、障害者の生活の質の向上、中でも余暇活動の充実を図り、家族も含めて笑顔で暮らせるまちにしていくという考えがある。私たちだけで行うとどうしても福祉的なイベントに止まってしまうが、文化観光局やアーティストと連携することによって発展的な取り組みにできる。パラトリを一過性のイベントで終わらせず、環境整備を行い、日常的な活動として地域に下ろして根づかせていきたい。そのための障害者芸術活動支援ネットワーク構築事業を今年度からスタートする」

内藤亮介（シーダひのき工房支援課長）：「アーティストが2カ月ほど滞在し、赤と銀で彩られたアトリエを見たときにはどうなるかと思った。でも交流している利用者がいきいきしていて、アーティストが関わることでその人らしさが引き出されるのを見て、職員の意識が変わった」

パラトリの最大の成果は、これまでタコツボ化していた取り組みや個人の思いや開かれることのなかった才能を、アートという創造力・想像力によってダイナミックにコーディネートし、大きなムーブメントを生みだそうとしていることだ。「みんなが特徴あるひとりの人としていられる社会」に向けての大きな歩みが始まっている。

（編集部・坪池、江坂）